



野木小だより

令和2年9月11日
第6号
野木町立野木小学校

2学期がスタートしました！

8月の平均気温が東日本の太平洋側（関東甲信・東海）で平年より2.2度高かったと気象庁が発表しています。暑くて短い夏休みが終わり、第2学期が始まりました。2学期の始業式も、終業式同様放送により実施し、子どもは教室で参加しました。式辞では、1学期できなかった運動会など学校行事があるので頑張ろうということをお話しました。また、学校アンケートの結果から課題となっている「あいさつ」を頑張ろうと呼びかけました。あいさつの意義を説明し、あ…あかるく い…いつも さ…さきに つ…つたわるように とあいさつの仕方を確認しました。

今学期も、感染症対策と熱中症対策を進めていきますので、ご家庭との連携をよろしくお願いいたします。

家庭防災会議について

8月12日に地域の方々と町役場の職員の方で避難所運営の確認が行われました。新型コロナウイルス感染症対策で3密を避けたかたちで、体育館や校舎を避難所とします。

ご家庭でもいざというときのために、お子様を交えてお話し合ってください。

- ①家の中で一番安全なのはどこか調べる。
- ②地震や水害等が起きたときだけでなく、日頃の防災対策上の役割を決めておく。
- ③避難場所、避難経路の確認。
- ④非常用持ち出し袋は、あるのか。また、どこにおいてあるのか。
- ⑤消火器などを備え使い方を知る。
- ⑥家族が離ればなれになったときの連絡方法

や集合場所を決めておく。

- ⑦家の耐震診断、耐震改修、家具の転倒防止、家の整理整頓をしておく。

授業研究会について

今年度から小学校では、新学習指導要領全面実施となりました。臨時休業で授業研究が進みませんでした。8月27日（木）に第1回目の研究授業を5年1組で実施しました。

本校の学校課題研修主題は、「自分の考えや思いを表現できる子どもの育成 ～主体的・対話的な学びの視点から学力向上を目指す～」です。これは野木町学校教育の重点テーマ「言の葉（ことのは）指導の充実」に通じるものと捉えています。全ての学びは言葉を介して行われるため、自分の考えを表現することも重視しています。今回の授業では、児童の考えを生かし、思考を深める教師の発問は、文章や叙述にそって根拠を示しながら読解させることに有効だったかを中心に研究を深めました。学力向上指導員の先生と県教育委員会・野木町教育委員会の指導主事の先生方からのご指導をいただいたことを、今後の授業に生かし、子どもたちの学力向上に努めていきたいと思っております。



福井県の野木小学校との交流について

福井県三方上中郡若狭町武生に、若狭町立野木小学校があります。若狭町は、福井県の南西部にあり人口16,099人（平成22年国勢調査）、面積178.65km²の町です。平成17年3月31日に「三方郡三方町」と「遠敷郡上中町」が合併し、「三方上中郡若狭町」が誕生しました。野木町は人口25,050人（令和2年4月1日現在）、面積は30.25km²です。平成30年ころから、若狭町と野木町の町長さん同士で話し合い、2校の野木小学校が交流したらいいのではという話が進んでいました。若狭町と野木町の似ているところは下のようです。

若狭町	野木町
三方五湖（みかたごこ）がラムサール条約指定湿地に登録されている	渡良瀬遊水地がラムサール条約指定湿地に登録されている
レインボーライン山頂公園が「恋人の聖地」に認定されている	野木町煉瓦窯&ハート池が「恋人の聖地」に認定されている
野木小学校 児童数80名	野木小学校 児童数134名

昨年の野木町ひまわりフェスティバルに若狭町の町長さんがいらっしゃったそうです。今年は、野木町長さんらが若狭町に行きました。今後の両校の交流が楽しみです。

熱中症対策について

9月に入り、台風9号、10号と続けて日本に接近しています。また、新潟県では、40℃を超えるなどまだまだ暑い日が続くと予想されます。猛暑に備え、大型扇風機8台と各教室用に温湿度計17個を町で購入していただきました。暑さ指数（WBGT（湿球黒球温度））は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度（℃）で示されますが、その値は気温とは異なります。①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。これを子どもたちの活動の判断基準としています。指数が31℃以上は「危険」で、運動や外遊びを原則禁止とします。

「学びのすがた」について

学習指導要領がかわり、「学びのすがた」の学習の記録が変わります。

観点4つから「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理されました。これからの社会が、どんなに変化しても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、幸せを実現してほしいという願いの下、子どものうちから身に付けてほしい力がこの3つの観点（柱）です。「知識・技能」は、学んだことを理解して、使う力、「思考・判断・表現」はいくつかのことを結び付けたり、比べたりして考え、課題を解決するためにどうするのがよいか決めて、伝えたり実行したりする力、「主体的に学習に取り組む態度」は自分の学びを振り返りながら、めあてに向かって粘り強く取り組む力と自ら学びを調整しようとする力です。授業では、すぐに答えが見つからないような課題や問題（チャレンジ）にも、あきらめずに取り組むことが大切です。